

編集 後記

この雑誌が会員の皆様の手元に届く頃は、残暑が厳しく、また、いまだ新型コロナウイルス感染症の終息について、先の見通しが立たず、心身ともに疲労を感じている状況ではないかと思えます。ストレスをため込みすぎないように、日ごろからのセルフケアにもご留意いただければと思います。

日本公衆衛生雑誌68巻8号では、原著2報、資料3報の内容が掲載されております。

第1編は、働く世代からのフレイル該当割合とその関連要因について、主観的健康感や体力の低さ、経済状況の不良、睡眠が不十分といった要因がフレイルに関連し、かつ40、50歳代でも一定割合でフレイル該当者が存在するという、大変興味深い報告であり、今後のフレイル予防対策を進める上でも、参考になる研究報告であります。第2編は、デルファイ法を用いた地域保健活動での主要用語の定義について、多様な解釈のある用語を、異なる地域や組織でも汎用化できるよう、保健師の地域保健活動の観点から定義した報告になります。昨今の災害対応や新型コロナウイルス感染拡大下では組織を超えた応援勤務が求められていることから、円滑に保健活動を進める上でも示唆に富むものです。第3編は、無症候性・前発症期の陽性者との接触による新型コロナウイルス感染事例を丁寧に分析されたもので、2次感染者との接触はすべて1次感染者の発症1~2日前で、いずれも換気が不十分な空間での接触を認め、飛沫感染が起きやすい状況があったと、現時点で提唱されている感染リスクの高い環境条件を支持する報告であります。第4編は、改正健康増進法および受動喫煙防止条例施行による病院の無煙化達成状況をまとめており、調査対象の県下の一般病院の無煙化は大きな問題もなく概ね達成され、精神科病院での無煙化も着実に浸透しているところです。私自身、10年以上前に精神科病院の敷地内禁煙化に取り組んでいた身でもありますので、精神科病院も一般病院同様に無煙化がより一層推進されるよう、関係者の方々のご尽力に期待しております。最後は、シルバー人材センター会員の屋外作業時の疲労対処行動について、こまめな水分補給や気温・天候に適した服装といった気温対策のほか、運動機能・認知機能の状況によって、日常的な運動、こまめな休憩、就業後の昼寝、保護具・作業補助具の使用、質の良い睡眠習慣などに関連があり、今後更なる増加が見込まれる高齢就業者が安全で健康に就業できるヒントになりうる報告であります。

本誌では、新規性や公衆衛生分野へのインパクトの大きい原著論文はもちろんになりますが、この雑誌を手にとることが多い、最前線で公衆衛生活動に取り組んでいる多くの実務者にとっても有益な活動報告も、会員の皆様により多く届けられればと思います。この号では、あいにく公衆衛生活動報告が掲載されておりませんでした。日ごろの日常業務の中で、他の自治体等で参考になるようなちょっとした工夫を、活動報告としてまとめていただけると、この雑誌がさらに盛り上がるのではないかと思います。私自身、自治体で勤務していますが、日ごろから他自治体の参考になるような業務や活動をまとめ、情報を発信するよう、自分も含め職員も意識するようにしています。より多くの会員の皆様からの投稿をお待ちしております。

(大類真嗣)

次号予告 (第68巻・第9号)

総説

医療・健康分野におけるスマートフォンおよびウェアラブルデバイスを用いた身体活動の評価：現状と今後の展望……………天笠志保，他

原著

新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言期間における予防行動の関連要因：東京都在住者を対象とした検討……………樋口匡貴，他
行政保健師における地域DOTS実践の質の評価と個人要因・組織要因との関連……………有馬和代，他
COVID-19感染拡大の影響下における人々の食生活への関心の変化と関連要因：食生活関心度尺度を用いた検討……………林 美美，他

資料

海外における減塩政策による循環器疾患予防に関するシミュレーションモデルを用いた医療経済的評価研究の現況……………加藤浩樹，池田奈由他